

感染症予防対策入門編 入社研修用

有限会社ファイブアローズ

感染症とは？ 感染症の定義

感染症とは

病原体（=病気を起こす小さな生物）が体に侵入して、
症状が出る病気のこと

病原体は大きさや構造によって細菌、ウイルス、真菌、寄生虫
などがある

感染症の分類

分類	定義	主な感染症名
一類感染症	危険性が極めて高い感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
二類感染症	危険性が高い感染症	結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、 新型コロナ 、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症	危険性は高くないが特定の職業に集団発生しやすい感染症	コレラ、細菌性赤痢、 腸管出血性大腸菌感染症(O157) 、腸チフス、パラチフス
四類感染症	人から人への感染は少ないが動物や食べ物から感染する危険のある感染症	狂犬病、日本脳炎、マラリア
五類感染症	国が調査、報告を行い発生予防に努める感染症	ウイルス性肝炎、後天性免疫不全症候群、梅毒、破傷風、風疹、感染性胃腸炎(ノロウイルス) インフルエンザ

介護施設で生じやすい感染症種類別危険性



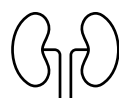
新型コロナ：飛沫・空気感染→利用者スタッフ共に感染の危険性高い。命の危険は利用者の方が高いがまだ未知なことも多いので怖い。集団感染で利用者の命や風評被害が怖い。



O-157・ノロウイルス・インフルエンザ→利用者スタッフ共に感染の危険性は高い。利用者は命の危険も高いが健康なスタッフは命の危険は高くない。集団感染を起こしやすい。



B型肝炎・C型肝炎・HIV・梅毒→血液を介する感染症の為針刺し事故や血液が目や口に入らない限りはスタッフの感染は怖くない。



MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）→痰や尿や皮膚に存在するが、利用者スタッフ共に危険性は高くない。常在菌として存在する。

病院入院中で抗生物質の治療中の患者の場合は命の危険が高くなることもある。



疥癬→利用者スタッフ共に命の危険はないが、かゆくて辛い。

スタンダードプリコーション 標準予防策

感染症の有無に関わらずすべてのケアに際して適用する予防策

標準予防策は、血液、体液（唾液、胸水、腹水等すべての体液）、分泌物（汗は除く）、排泄物、あるいは傷のある皮膚や、粘膜を感染の可能性のある物質とみなし対応することで、利用者と介護従事者双方における感染の危険性を減少させる予防策である。

介護技術動画で感染予防策を勉強しよう

- マスクの装着
- 手袋の付け外し
- 手洗い
- 嘔吐物の処理

<https://mdoga.net/>

ユーザー名 iwashita

パスワード 26109754



感染予防対策を実施して

自分の身体は自分で守ろう。

スタンダードプリコーションを厳守すれば、感染予防につながる。

万が一、血液媒体の感染者の針刺し事故や感染者の血液が目や口に入った場合は、すぐに水道水で念入りに洗い流し、管理者へ報告する。

管理者はすぐに役員へ報告する。事故を隠すのが一番まずい。

その利用者の主治医に報告をして、必要であればすぐに受診をする。

病院受診の費用は労災扱いとなる。損害賠償保険などの適応になる場合もあり。

使用後の針の片付け時には十分注意をする。

嘔吐時には自分の顔を利用者の口もとに近づけない。